# 『作庭記』と日本の庭園

白幡洋三郎 編

2014年4月刊行

▶A5判・364頁／定価：本体5,000円（税別） ISBN978-4-7842-1746-5

庭園は世界を映す鏡である。名園と言われる庭園はそれぞれ、人がどのような世界に生きてきたか、何を美と感じてきたかを雄弁にものがたっている―。日本最古の作庭理論書として知られる『作庭記』には、中世の人々の作庭技術のみならずその背後に宿る思想・美意識が反映している。そうした着想から企画され、さまざまな専門分野からの意見を出し合い、議論し、「日本庭園を通した古代・中世的自然観」の発見を試みた国際日本文化研究センターのシンポジウム「日本庭園と作庭記」の成果。

◎内容目次◎

序

日本庭園の「誕生」と『作庭記』の意義 白幡洋三郎（国際日本文化研究センター教授）

第Ⅰ部 始原

華林園の記憶―江南から大和へ― 多田伊織（京都大学人文科学研究所教務補佐員他）

祭祀と饗宴の庭 原田信男（国士舘大学21世紀アジア学部教授）

臨池伽藍の系譜と浄土庭園 小野健吉（奈良文化財研究所副所長）

第Ⅱ部 創造

『作庭記』原本の再生 飛田範夫（元長岡造形大学教授）

浄土庭園と『作庭記』と『祇園図経』 外村中（国際日本文化研究センター外国人研究員）

『作庭記』にみる禁忌・陰陽五行・四神相応 水野杏紀（関西医療大学非常勤講師他）

第Ⅲ部 成立

名所を詠む庭園は存在したか―河原院と前栽歌合を中心に― 錦仁（新潟大学名誉教授・フェロー）

四方四季と三時殿―日本古典文学の庭と景観をめぐって― 荒木浩（国際日本文化研究センター教授）

鳥羽離宮庭園から見た鳥羽上皇の浄土観 鈴木久男（京都産業大学文化学部教授）

幻の庭園―本法寺蔵「法華経曼荼羅」化城喩品を例として― 原口志津子（富山県立大学工学部教授）

第Ⅳ部 展開

鎌倉時代における離宮および山荘と庭園 豊田裕章（京都大学人文科学研究所共同研究員）

南北朝時代の臨済宗幻住派・金剛幢下における境内空間 榎本渉（国際日本文化研究センター准教授）

露地考―中国からみた日本の庭園美― 陸留弟（華東師範大学日本語学科教授）

※所属は二〇一三年度

思文閣出版 〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

| 注文票 | 発行：思文閣出版 | | （京都 取引コード 3402） |
|---|---|---|---|
| 冊数 | 冊 | 『作庭記』と日本の庭園 本体5,000円（税別） ISBN978-4-7842-1746-5 | |
| お名前 | | tel / e-mail | |
| ご住所 | 〒 | | |
| 送本方法 | □書店経由（このちらしを書店にお渡し下さい）<br>□代 引（書籍代＋送料を現品と引き替えにお支払い） | 本書HPのQRコード | 書店番線印 |

# 春秋　京大和翠紅館
## 平安から平成まで　京の雅

木村幸比古・中根史郎・中村昌生著／梅原猛序文

京都の老舗料亭京大和がある東山霊山のふもとは、古くからの聖地であり、風光明媚な仙郷であった。江戸時代には西本願寺の別業であり、翠紅館と称された。また、幕末には尊皇の志士が結集した「翠紅館会議」で知られる。その歴史・庭・建物を、カラー口絵と解説で紹介。特に、江戸時代の翠紅館の姿そのままに大正時代に建てられた建物や藪内流の茶室について、和建築の第一人者である中村昌生氏が、多数の図面とともに詳述する。

▶B5判・80頁／本体 2,800円（税別）
ISBN978-4-7842-1417-4

## 棟札の研究
水藤真著

寺院の殿堂や神社などの上棟式・大修理・屋根替のさいに、建物名・願主・工匠名・上棟年月日などを記して棟木に打ち付けた板を棟札という。本書は、国立歴史民俗博物館が行った棟札調査報告書をもとに、定義・概要・書式の考察から棟札の意味・価値など多方面から検討を加え、研究の整理と方向性を示した一書。

▶A5判・230頁／本体 3,800円（税別）　ISBN4-7842-1243-4

## 写しの力　創造と継承のマトリクス
島尾新・彬子女王・亀田和子編

二項対立的に「オリジナル」と「コピー」を捉え、模本を原本に劣るものとして考えるのではなく、日本美術における模写の伝統をさまざまな角度から再検討する試み。【内容】日本文人画における間画像性と写し／室町水墨画における「写し」／海を渡った法隆寺壁画／写しの文化における舞台表現の伝承　他

▶A5判・278頁／本体 4,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1711-3

## 祭りのしつらい　町家とまち並み
岩間香・西岡陽子編／京極寛写真

祇園祭・天神祭をはじめ、城端（富山県）や倉敷など各地の祭り飾りや造り物などをとりあげ、町家とまち並みを飾る祭りの文化を紹介。カラー60頁。【内容】座敷を飾る―神像・家宝・造り物／絵画に見る祭りのしつらい／祭りのしつらいと町家・町並み―大津・日野・奈良井／祭りの住文化とまちづくり―城端・倉敷・村上　他

▶B5判・224頁／本体 2,200円（税別）　ISBN4-7842-1360-3

## 黄金のとき　桃山絵画
京都国立博物館編

信長・秀吉と狩野永徳に象徴される桃山時代の絵画を狩野派とそれをめぐる作家たちの作品を中心に構成する。大画面―襖・屏風・大絵馬・杉戸絵―を主として基本作品全100点を全８章に分けてオールカラーで収録。各章ごとにテーマ解説を掲げ、適宜部分拡大図を収めた。

▶B4判・400頁／本体 40,000円（税別）　ISBN4-7842-1044-X

## 近代数寄者のネットワーク
### 茶の湯を愛した実業家たち
齋藤康彦著

高橋義雄・根津嘉一郎・小林一三・・・。彼ら近代実業家と茶の湯に関わる単なるエピソードの紹介ではなく、従来顧みられなかった茶会記録である『茶会記』のデータ分析を通して政界・官界・実業界を横断するネットワークを描出するものである。

▶A5判・308頁／本体 4,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1603-1

## ※室町時代庭園史
外山英策著

昭和9年に刊行された本書は、まだ未熟であった庭園史という領域において傑出し、殊にその文献史料の豊富さ、古文書解読のみごとさでは多くの歴史家の間で評判をとった名著である。室町時代の庭園約150について、豊富な文献を基に論じる。

▶B5判・792頁／本体 12,000円（税別）　ISBN4-7842-0230-7

## 近世の禁裏と都市空間
岸泰子著

禁裏が関係する信仰や儀礼の場・空間の特性に注目し、近世京都の特性を中世・近代への展開も視野に入れて明らかにする。さらに、都市・建築史的観点から近世の天皇・王権のありかたにも注目し、天皇が表出する場の特性や天皇と民衆の関係性などにも言及する。

▶A5判・320頁／本体 6,400円（税別）　ISBN978-4-7842-1740-3

## 近世京都の町・町家・町家大工
日向進著

近世における京都町家の形成と展開の過程を事例として、町家が住居形態として一定の類型を保持し、存続してきた背景としての建築的、技術的、社会的、都市的な要因の解明を試みることを目的としたものである。

▶A5判・340頁／本体 7,800円（税別）　ISBN4-7842-0984-0

## 京・近江・丹後大工の仕事　近世から近代へ
建部恭宣著

江戸時代から明治・大正にかけての京・近江・丹後における大工の活動状況を明かした労作。寺院造営における大工の仕事、就労状況、町大工の構成と作事棟梁制度の変遷、幕末の藩士住居の図面と用材など、史料の精査に基づいて大工活動の実態と近代化への歩みを考察する。

▶A5判・270頁／本体 5,500円（税別）　ISBN4-7842-1282-5

## 風俗絵画の文化学Ⅱ　虚実をうつす機知
松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」―虚実を往来する機微や感性の「かたち」―を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／本体 7,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1615-4

## 室町水墨画と五山文学
城市真理子著

室町時代中期の画僧である「岳翁」と東福寺僧了庵桂悟の関係を手がかりに、詩画軸制作のありようを探り、雪舟と関連づけることで、周文の実像に迫ることを試みる。さらに禅僧の文人的営為を反映するものとして、周文筆と伝えられる詩画軸や煎茶図様の水墨画について考察。

▶A5判・336頁／本体 6,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1607-9

## 百人一首万華鏡
白幡洋三郎編

和歌・文芸の領域はもちろん、日本人の生活全般にわたって深い関わりをもつ百人一首を、歌の解釈はもとより、歴史、選び方、カルタ、翻訳など、さまざまな角度から紹介し、その文明的広がりをさぐる。それぞれのテーマにそった版本、各種カルタ、翻訳本など、カラー口絵（16頁）収録。

▶B5判・196頁／本体 2,400円（税別）　ISBN4-7842-1223-X

## 野村得庵の文化遺産
野村美術館学芸部編

野村證券をはじめとする野村グループの創始者・得庵野村徳七の文化活動に焦点を当て、各分野の第一人者が論文集の形でまとめる伝記。1951年発行の『野村得庵』全三巻以降新たに発見された史料や最新の研究動向をふまえ、新たな得庵像を提示する。図版多数。

▶A5判・506頁／本体 3,000円（税別）　ISBN978-4-7842-1701-4

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年４回無料でお送りしています。
電話・fax・Ｅメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。